

は し が き

この研究報告は、当教育センター科学教育部所員、理科長期研修員の研究成課をまとめたものであります。

小・中・高校の新学習指導要領が出そろい、高等学校では57年度から新学習指導要領で授業がスタートし、一年が経過しました。自然の事物や現象の解明のためには、自然科学の基礎的・基本的概念の育成が大切であることは言うまでもありません。と同時に、理科教育の目標の一つは、生徒自身が、身近な事物や現象に鋭い目を向け、その奥に潜む真理を探究する力を養うことにあります。そのためには、身近な素材を明らかにし、その教材化を検討することが重要な課題の一つです。

また、時間数の削減、少なくなった教材という条件の中で基礎や基本を大切にし、いかにゆきとどいた指導をするかを考えるとき、今こそ教師の独創性の発揮が期待される重要な時間でもあります。

そこで、当教育センターでは、数年前からこれらの情勢をふまえ、指導上の問題点や身近な素材の検討を進めてまいりました。今年度も、以上の点に特に留意して、理科教育の現代化に対応した指導上の問題点や素材の検討を行い、それらの結果をまとめてみました。しかし、これらの報告の中には引き続き研究を要する内容のものもあり、また、研究の進め方や結論の導き方に不十分なものもあるかと思いますので、お気づきの点がありましたら、率直な御指導と御批判をいただけたら幸いです。

最後に、これらの研究にあたり、御助言をいただいたり便宜を与えてくださいました各位に対し、厚くお礼申し上げます。

昭和58年3月

新潟県立教育センター所長

陶山正和